

「新しい戦前の始まり」

「今の沖縄の軍事要塞化は、沖縄戦に突入していった戦前の動きと重なっている」と警鐘。平和外交こそ大事と提起。

3月2日・渡久地修県議団長の県議会一般質問の一部を紹介します。

日本共産党県議団だより
号外：2023年3月
866-2756

●渡久地 修

沖縄を戦場にさせてはならないという問題についてお尋ねします。

今、新たな戦前だと、戦前になろうとしている。タレントのタモリさんもテレビで発言して、大変危険な状況だと思えますけれども、この新たな戦前という点で、78年前の沖縄戦の戦前はとうだったのか。さきの沖縄戦で日本軍が沖縄守備隊32軍を編制したのはいつですか。

●子ども生活福祉部長

平和祈念資料館の資料によりまずと、1944年3月南西諸島方面の防衛強化のために沖縄守備軍第32軍が創設されたとのこと。

●渡久地 修

米軍が沖縄に上陸する1年前。



渡久地修県議 3月2日

その目的は何だったのでしょうか。

●子ども生活福祉部長

沖縄守備軍の当初の任務は、本格的な航空基地の建設でしたが、1944年7月のサイパン陥落後、沖縄守備軍は増強され、飛行場建設や陣地構築が進められたとの記述がございます。

20か所の飛行場建設 沖縄を不沈空母に

●渡久地 修

いわゆる沖縄を不沈空母にするということが記述されています。そして不沈空母として軍事要塞化した。飛行場を奄美から宮古・八重山まで造った。何か所、どの地域に造ったのかお願いします。

●知事公室長

まず陸軍伊江島飛行場、陸軍北飛行場——これは読谷です。陸軍中飛行場・嘉手納、陸軍南飛行場——これ浦添です。陸軍東飛行場・西原、陸軍石嶺飛行場、海軍小禄飛行場、海軍与根飛行場、海軍南大東島飛行場、海軍宮古島飛行場、陸軍宮古島中飛行場、同じく陸軍宮古島西飛行

場、海軍石垣島平得飛行場、海軍石垣島北飛行場、陸軍石垣島飛行場、陸軍石垣島宮良飛行場、合計16か所が県内に造られた飛行場ということになっております。

●渡久地 修

あと4か所が奄美でいいんですか。

●知事公室長

残り4か所も読み上げますと、海軍航空隊古仁屋基地——これは奄美大島、海軍飛行場・喜界島、陸軍北飛行場として徳之島、陸軍南飛行場——これ徳之島と4か所の、沖縄と奄美合わせて合計20か所が造られております。

●渡久地 修

このように上陸の1年前に20か所、本当に恐ろしいですね。20か所の飛行場を造っています。そして首里城の地下に32軍司令部を造りました。地下に。この目的は何ですか。

●子ども生活福祉部長

沖縄県史沖縄戦によりますと、地下に司令部を造った目的として、第32軍は地下陣地に潜み、持久戦に

備えていたとの記述がございます。

●渡久地 修

この沖縄戦の1年間前の動きから見ていくと、今の沖縄で起こっていることが本当に全く重なって見える。この20か所に飛行場を造っていった。地下に司令部を造っていった。戦争の準備をして、米軍を沖縄に引き寄せて本土防衛の捨て石にした。今、自衛隊のこの沖縄での動き、これについてももう少し詳しく教えてください。

沖縄の軍事要塞化へ 今の危険な動き

●知事公室長

現在の動きとしましては、例えば令和5年度の防衛省の沖縄関連予算においては、1つには、第15旅団の師団化に伴う新たな隊庁舎の調査設計の経費、2点目として、那覇駐屯地の指令部庁舎を一部地下化するた

めの基本検討の経費、3点目として、沖縄訓練場に補給処支処を新編するための基本検討の経費、それから4点目として与那国駐屯地への将来的な地对空誘導弾部隊等の配備に必要な土地の取得に係る経費などが計上されております。

●渡久地 修

戦前は飛行場20か所、今はミサイル基地、本当に同じ場所に第一列島線というところに配備しているという、全く同じ動き。

そして公室長、防衛力整備計画で導入するとした長距離ミサイルというものは、どんなものですか。それは、1000キロから3000キロと言われています。これを沖縄からもし発射すると、中国のどこまで届くんですか。

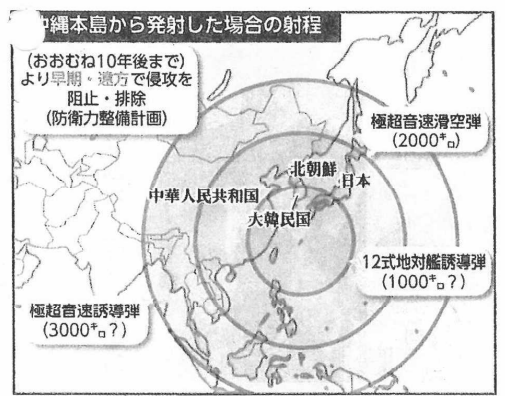
●知事公室長

防衛力整備計画においては、長射程ミサイルについて、これは我が国に侵攻してくる艦艇や上陸部隊等に対して、脅威圏外から対処する能力を強化するため、12式地对艦誘導弾能力向上型、島嶼防衛用高速滑空弾、さらに極超音速誘導弾の開発・試作を継続するとしております。島嶼防衛用高速滑空弾及び極超音速誘導弾をはじめ、各種誘導弾の長射程化を実施する。それから米国製のトマホークをはじめとする、外国製スタンドオフミサイルの着実な導入を実施・継続するとしております。報道によりますと、これらのミサイルの射程、議員御指摘のとおり、1000キロから3000キロ程度とさ

表1 日本陸海軍が沖縄県内に建設した飛行場

	名称(一般名称)
1	陸軍伊江島飛行場(伊江島中飛行場・伊江島東飛行場)
2	陸軍北飛行場(読谷飛行場)
3	陸軍中飛行場(嘉手納飛行場・屋良飛行場)
4	陸軍南飛行場(仲西飛行場・城間飛行場)
5	陸軍東飛行場(西原飛行場・小那覇飛行場)
6	陸軍石嶺飛行場
7	海軍小禄飛行場
8	海軍与根飛行場
9	海軍南大東島飛行場
10	海軍宮古島飛行場
11	陸軍宮古島中飛行場
12	陸軍宮古島西飛行場
13	海軍石垣島平得飛行場
14	海軍石垣島北飛行場(平喜名飛行場)
15	陸軍石垣島飛行場(白保飛行場)
16	陸軍石垣島宮良飛行場

【沖縄県史・沖縄戦】より



れておりまして、沖縄から3000キロ以内には、中国ですと北京、上海、ソウル、香港、台北などのアジアの主要都市などが含まれるほか、北朝鮮の平壤、中国の内陸側の重慶、成都などの都市が入るといふことになっております。

日本が攻撃されて ないのに戦争に参加

●渡久地 修

これらが配備されると——抑止力とよく言いますが、配備されると逆に相手側も沖縄を狙ってまた配備する。果てしない軍拡競争に、一触即発になって人類絶滅になってしまうおそれがある。大変危険です。今、台湾有事が盛んにあおられていますが、私が一番恐れるのは、日本が攻撃されていないのに米軍と一緒に参加していく。その結果、沖縄が攻撃されるといふことです。

それで台湾有事に米軍が介入したら沖縄が核兵器で攻撃されると、私

前にも指摘しましたが、アメリカ力の議会で報告書が出されました。それには何と書いてありますか。

●知事公室長

米国連邦議会調査局CRSの報告書においては、中国が台湾を攻撃する場合、日本の南西諸島に近い場所で軍事作戦を行う可能性が高いこと、仮に米軍が台湾有事に介入する場合は、在日米軍基地が関与する可能性があり、その場合、日本は中国の攻撃目標になる可能性があること等が指摘されております。また、C-17等の民間シンクタンクから同様の指摘がなされております。

●渡久地 修

公室長、前の議会の報告書では、沖縄もすっかりと沖縄の米軍基地と書かれているんですよ。そこを明確にしてください。

●知事公室長

米国の空母、グアム、沖縄の米軍基地といふことにされております。

●渡久地 修

この3か所が核兵器で攻撃されるおそれがあると書かれているんですよ。アメリカの報告書に。大変恐ろしいことです。

そしてC-17が台湾をめぐる戦争のシミュレーションを行っているます。これについて何と書かれていますか。

●知事公室長

戦略国際問題研究所——これはC

S-17ですけれども、今年1月に公表した中国による台湾侵攻を想定したシミュレーションの結果報告書によりますと、中国が台湾に侵攻し、

米国が介入した場合、米国が勝利するには在日米軍基地を使用する必要があること、それから勝利した場合でも日本に甚大な人的・物的損失が生じることなどが示されております。特に、沖縄では多数の防空ミサイルが配備されていたにもかかわらず、中国のミサイルによって多くの航空機が地上で破壊されることや、嘉手納飛行場は破壊された多数の航空機、多くの遺体を埋葬する仮設墓地を有するようになるとの記述もあり、沖縄における甚大な被害が記述されております。

●渡久地 修

航空機と兵士の被害については書いてありますけれども、沖縄には145万国民が住んでいるんですよ。沖縄県民の被害については何と書いてありますか。

●知事公室長

このC-17の報告書において、県民の被害に関する記述はないものと認識しております。

絶対に戦争をさせない 平和外交こそ必要

●渡久地 修

ここに軍隊の本質がある。またやっぱり捨て石にされる。沖縄県民の被害は全くこれには書かれていないという大変なものです。

ですから大事なものは、絶対に戦争を起させない、そういうことが大事だと思います。

知事、自治体外交、これはとても大事だと思います。先ほどの答弁で、ASEANとの協力、東アジアとの地域協力を進めていくということも言っていますけれども、私は今年からとても大事になると思いますので、知事、この地域外交を積極的にやってください。そして、去年広島長崎、国連の代表を呼ぶ慰霊の日、残念ながらコロナで中止になりました。ぜひこれ、今年できないかなと知事に提案したい。そして、先ほど答弁があったASEANは地域協力をやりたいと言っているわけだから、ASEANとか東アジアの代表も沖縄の慰霊の日に招待するというのはとても大事だと思うんですけども、知事どうでしょうか。

●知事公室長

県では、令和4年度から沖縄の平和を希求する心や歴史的、地理的特性を生かして、アジア太平洋地域の緊張緩和と信頼醸成に寄与することを目的とする、アジア太平洋地域平和連携新事業を実施しております。今年度は、沖縄との連携可能性等について——これは文献調査、有識者ヒアリングを実施し、来る3月にシンポジウムを開催することとしております。次年度からは、対象国等を拡大しまして、様々な分野で沖縄との連携を図ることを想定しており、新たに設置する地域外務局で策定する沖縄県地域外交基本方針(仮称)も踏まえつつ、関連部局と連携して

取り組んでまいりたいというふうに考えております。

●渡久地 修

知事、最後に沖縄を戦場にさせない。そのために積極的な自治体外交を知事が先頭に立ってやっていくと。そういう意味では、ASEANというのは平和の共同体ですから、ASEANを含めて東アジアも含めて、沖縄県でできるものは積極的にやっていくという点で、知事の最後の決意をお聞かせください。

●玉城デニー知事

私は、今議会冒頭の知事提案説明要旨において、平和を希求する先人たちの思いを引き継ぎ、未来を生きた子や孫たちのためによりよい未来を創造するため、県民の皆様とともにひたむきに沖縄のために取り組むと申し上げました。今、答弁の中にもありましたとおり、私たち沖縄県民は、戦争の不条理と残酷さを身を持って経験したことから、平和の尊さを肌身で感じており、世界の平和の回復と恒久平和を心から望んでおります。

沖縄県としては、二度と沖縄を戦場にしてはならないとの決意をここに改めて表明するとともに、アジア太平洋地域における平和構築に貢献するため、ASEAN等の国々も言え、本県が有する多様なソフトパワー、ネットワークを活用した独自の地域外交に県民の皆様と一丸となつて全身全霊で取り組んでまいります。